

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取り組みの成果 及び課題への対策	評価	学校関係者評価者による意見 今後の改善策
1	①情報共有を充実させ、主任等を中心とした同僚性・専門性を活かし研修・協働の中で、教員の資質能力の向上を図る。	教頭	＜成果指標＞ 主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年が縦横の連携を図り、教員が資質能力を高め、組織的な学校づくりを行う。	＜教職員アンケート1＞ 学校経営ビジョンを理解し、必要な情報を共有し連携を図り、一人一人が資質能力を高めて組織としての高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート1＞ 100% 学校経営ビジョンの具現化に向け、主任層のリーダーシップの下、各分掌や学年としての組織的な連携や実践が十分に図られている。今後もさらなる連携を図り、組織的な学校づくりを進めていく。	A	＜学校関係者評価者による意見＞ ・定時退校への意識が高まってきていることは評価できるので、多忙化改善を更に進めてほしい。 ・未然防止ができる対策が大切なので、早期対応と合わせて、努めてほしい。
	②「気づき」を大切に、常に改革・開発の意識でカリキュラム・マネジメントを充実させ、自身の働き方を見直し、多忙化改善の具体的な取り組みと平準化の工夫を図る。	教頭	＜努力指標＞ 見通しを持ち業務の改善・効率化を図り、勤務時間の短縮に努め、月2回定時退校している。	＜教職員アンケート2,3＞ 常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりに参画し、見通しを持ち効率的に業務を行い、勤務時間を短縮できたか。	＜教職員アンケート2＞ 100% ＜教職員アンケート3＞ 60% 学校運営参画の意識は引き続き高い。定時退校への意識は前年度に比べても高まっており、意識の改革は進んでいると思われる。しかしながら、業務改善については、まだまだ改善の余地があり、業務の平準化など進めていきたい。	D	＜今後の改善策＞ ・学校経営ビジョンの具現化に向け、主任層のリーダーシップと縦横の連携の下で、組織的な学校づくりを進めていく。 ・カリキュラムマネジメントと合わせて、業務の平準化を図り、働き方改革が確実に実現する改善を進めていく。
	③安全対策や危機管理の意識と指導力を高め、いじめや不登校等に対し組織として計画的に未然防止に取り組むとともに対応を迅速に行う。	生徒指導	＜努力指標＞ 情報交換を密に行い、各主任や担任・学年会が縦横の関係でいじめ・不登校に対し組織的に対応している。	＜教職員アンケート4＞ 情報の共有化が密にできており、いじめ・不登校傾向にある生徒に対し、未然防止や早期の適切な対応ができたか。	＜教職員アンケート4＞ 60% 昨年度後期と比べ上昇はしているが、満足のいく数値とは言えない。これまでの定期的な相談の会や生徒指導の会、学年会や職朝での情報共有を引き続き行うことに加えて、共有内容の精査や充実を図る必要がある。また、未然防止の視点をより具体的に持つために、いじめ対応アドバイザーの派遣を依頼し校内研修会を行う。	D	・不登校対応について、相談室の充実を含め、改善が進んでいる実態の中、様々な危機管理やいじめ、不登校に対して未然防止の意識を高めていく。
2	①教科と総合的な学習の時間の学びを往還させ、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を展開する中で、授業をコーディネートする力を高め、GIGAスクール構想を意識した授業改善を図る。	研究	＜努力指標＞ 各教科および総合的な学習の時間で、ICT機器を活用して生徒の思考を促す工夫を行い、まともと振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する。	＜教職員アンケート5,6,14,15＞ ＜生徒アンケート16,19,34,35＞ ＜保護者アンケート11,12＞ 生徒自身に、思考・判断し表現させることを積極的に行っているか。GIGAスクール構想を意識した取り組みができていくか。生徒が学びの高まりを実感しているか。	＜教職員アンケート5＞ 85% <6> 100% <14> 86% <15> 96% ＜生徒アンケート16＞ 94% <19> 95% <34> 98% <35> 96% ＜保護者アンケート11＞ 85% <12> 83% 生徒自身に思考・判断し表現させることについては意識的に、積極的に取り組んでいる。ICT機器の活用についても引き続き、意図的な活用場面を考えていきたいと考える。2学期は総合の課題研究も本格的に始まるため、教科と総合の学びを往還を考え、今後もICT機器を活用し主体的に対話的な深い学びを実現する取り組みを行ってきたい。	B	＜学校関係者評価者による意見＞ ・昨年度で県モデル校としての発表が終わったものの、引き続きICT教育が充実してきて生徒の学びに向上が見られてよい。
	②「授業の辰人スタイル」を身に付け、生徒の自ら学ぶ積極的な態度を育てるとともに、生徒全員が「わかる・できる」授業をめざす。	研究	＜満足度指標＞ 「授業の辰人スタイル」を意識した授業を行い、場面を逃さずに褒め、生徒全員が「わかる・できる」と実感できる授業を創る。	＜教職員アンケート7,9＞ ＜生徒アンケート15,18＞ 自ら学ぶ積極的な態度が身につく、授業がわかり、できるようになった実感があるか。	＜教職員アンケート7＞ 96% ＜教職員アンケート9＞ 97% ＜生徒アンケート15＞ 91% ＜生徒アンケート18＞ 95% 「授業における辰人スタイル」については職員・生徒とも意識して取り組むことができているようである。これからは「辰人スタイル」に立ち返りながら、生徒全員ができる、わかる授業を目指していきたい。	A	＜今後の改善策＞ ・今年度は「学びのベーシック事業」として國學院大学・田村学教授を招聘し、研究を進めている。ICTを活用しつつ、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。 ・教師による一斉指導型の授業スタイルから、協働的な学びの視点による授業改善を図る。「授業における辰人スタイル」を今一度確認し、教科部会を生かしながら、職員・生徒が一体となり、より良い授業づくりに努めていく。 ・学力向上ロードマップをもとに、全国及び県学力調査の結果を全学年で生かしていく。学力調査の問題に込められている設問の意図や背景を読み取り、授業改善を図る。
	③学びのPDCAを構築し、計画的、組織的に学力の検証と学びの改善を重ね、基礎的知識・技能の定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力を育成する。	教務	＜成果指標＞ 学力向上ロードマップを活用し、基礎的知識・技能や思考力・判断力・表現力等の向上に努めている。	＜教職員アンケート8＞ PDCAサイクルを実施し、学力の検証・改善がなされ、様々な面で学力の向上に表れているか。	＜教職員アンケート8＞ 93% 「今求められている力」とは何かを教職員全体で共有し、全国及び県学力調査結果を元にして、学力の検証と授業改善を重ねてきた。結果公表後は新たに分析を行い、教職員全体で本校の課題について共有する。「総合的な学習の時間・課題研究」における探究型の学び、また「ICTを効果的に活用した授業」の両輪により、思考力・判断力・表現力の育成に努めていく。	A	
3	①集団の中での自分の役割を果たすことを通して自己肯定感を高められるよう、認め合える温かな学級づくりをめざす。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒指導の4つの視点を意識し、学習集団、生活集団としての機能を高める学級づくりに努めている。	＜教職員アンケート10＞ ＜生徒アンケート29＞ Q-Uアンケート結果や生徒面談を活かし、親和的な学級づくりに努めているか。生徒の自己肯定感が高まっているか。	＜教職員アンケート10＞ 100% ＜生徒アンケート29＞ 92% 教職員においては、各学年、各学級ともアンケートや面談をもとに親和的な学年学級づくりや、各個人に対しても非常に丁寧に指導に当たっている。生徒においても、各種行事における役割や、クラス内の一人一人役割を与えらる場面が多くあり、そこで自分の役割を果たそうと動ける状況を今後も設定し、自己肯定感が高められる場を意図的に作っていく。	A	＜学校関係者評価者による意見＞ ・学校行事等を通して、生徒同士の縦の繋がりを図り、生徒の成長が見られた。 ・委員会活動等を中心に、生徒が学校づくりにより主体的に取り組めると良い。 ・自転車マナー等の交通安全の問題について、生徒から発信する取り組みができると良い。
	②生徒会活動やボランティア活動を通して自治・自浄の能力を高めるとともに、他のために役立つ自己を実感させる。	生徒指導	＜満足度指標＞ 生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、開発的生徒指導を行っている。	＜生徒アンケート26＞ 生徒会活動やボランティア活動が活発で、自己有用感が高まっているか。	＜生徒アンケート26＞ 74% 昨年度と比べて20Pの上昇であった。コロナ5類移行が原因として考えられる。行事では生徒が前に出る機会が増えたり、委員会単位で生徒から発信するものも以前より増えている。生徒会の提案から各委員会が動くこの形態を継続したい。また、キャップ回収やボランティアチャレンジにも多くの協力を得ることができたので、そのような呼びかけも続けていく。	C	＜今後の改善策＞ ・様々な活動に制限が無く、より幅広い活動ができるようになった。生徒が主体的に学校づくりに参画できる仕掛けを行っていく。
4	①生徒の不安や悩みを迅速に把握し、解消できるように相談体制や居場所を充実させ、困り感のある生徒には個に応じた配慮を工夫する。	生徒指導	＜満足度指標＞ 教育相談体制を充実させ、生徒の実態を把握・共有し、問題の解消に努めている。	＜保護者アンケート5＞ 学校は、不安を持っている生徒や困っている生徒の実態を把握し、問題の解消に努めているか。	＜保護者アンケート5＞ 83% 教育相談の会での情報交換や支援体制の確認、相談室の整備など居場所の確保など問題への対応はできている。また、生徒との個別の面談により、不安や困り感を吸い上げる体制は続けたい。SCの紹介をはじめ、困り感のある生徒に対する積極的な生徒指導をおこなう。	B	＜学校関係者評価者による意見＞ ・先生方の頑張りや保護者にも伝わって大変評価している。1-③とも関連して、先生方は自分たちを厳しく評価しているのではないだろうか。 ・ネット関係については今の時代は常に意識しなければならない問題。継続して学習会をしたり、生徒会での取り組みをしたりできると良い。 ・生徒が部活動を楽しんでいる様子が伺える。安全に気を付けて、目標を持って頑張ってもらいたい。
	②家庭と連携してインターネットのルールを徹底するとともに、起きる時間、寝る時間、学習時間を確保するなど望ましい生活習慣の確立を図る。	生徒指導	＜満足度指標＞ 家庭と学校の連携が高まり、家庭のネットのルールが守られ、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート6,8,9＞ ネットトラブルやネット依存防止のために、フィルタリングやルール作りを行っているか。 ＜生徒アンケート22＞ ＜教職員アンケート12＞ 時間の3点確保を行い、望ましい生活習慣が確立できたか。	＜保護者アンケート6＞ 80% <8> 85% <9> 80% ＜生徒アンケート22＞ 75% ＜教職員アンケート12＞ 93% インターネットとの向き合い方については、学校全体や各学年等で生徒の現状や行事等の機会を想定し、定期的に行っている。ネットはもちろん、より良い生活リズムのために時間の見直しを持たせられるよう、家庭への呼びかけも含めて、学校での取り組みは引き続き行っていく。	C	＜今後の改善策＞ ・教育相談体制の更なる充実を図り、様々な方法で困り感のある生徒に対応していく。 ・情報モラル集会の実施をはじめ、今後も電話通話者によるネット等の学習会を計画している。 ・部活動の地域移行の動向を見ながらも、本校として継続して部活動の充実を図る。
	③体育的活動・部活動を中心に、仲間と協力しながら、体力を高めるとともに、自分で設定した目標に向かって努力する。	保健文化	＜成果指標＞ 体育的活動・部活動を通じ、親和的な人間関係を育みながら体力を向上させ、自分なりに設定した目標に向かって努力している。	＜教職員アンケート11＞ 生徒が目標達成に向けて努力しようとする姿は向上しているか。	＜教職員アンケート11＞ 96% コロナ5類移行により制限も緩和され、見直しをもって体育的活動・部活動が行えるようになり、生徒と関わりながら目標達成できるようになったことが要因の一つであると思われる。今後の活動では、感染症や気候の変動等のこともあるが、その中でも、生徒が目標達成のための努力に対して、できる限りの指導・支援が必要であると考え。	A	
5	①地域の特色を積極的に学習に活かす中で地域の未来や、社会貢献、自分の生き方を考える等、教育活動の更なる充実を図る。	教務	＜努力指標＞ 地域のヒト・モノ・コトを活用し、地域や自分の在り方を考え、社会貢献できる生徒づくりに努めている。	＜教職員アンケート13＞ 教科横断的な視点を持ち、地域リソースを生かした教育活動が行えたか。 ＜生徒アンケート13＞ 地域とのつながりを考え、地域の方や先生から学ぶことができたか。	＜教職員アンケート13＞ 92% ＜生徒アンケート13＞ 97% コロナ5類移行により制限も緩和され、総合的な学習の時間を中心に、積極的に地域へ目を向けた活動に取り組んだ。4年ぶりに開催された2年生の職場体験を始め、1年生の能美市SDGs、GCPといった講演会を実施した。また、3年生の体験入学や能美相撲大会等も以前のような形で実施されている。2学期も「課題研究」に向けて地域リソースを生かした教育活動を推進していく。	A	＜学校関係者評価者による意見＞ ・コロナによる様々な制限前よりも新しく進んだことや新たな自然災害の発生もきめ、大きく変化がある。学校全体で地域社会に広く目を向けて、課題を見付け取り組んでほしい。 ・家庭科の着付ボランティアに取り組めたことは良かった。今後、保護者にも呼び掛けたい。 ・学校運営協議会からも保護者、地域に向けてアピールできると良い。
	②学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域の協力体制を構築し、よりよい学校づくりを推進する。	教頭	＜満足度指標＞ 学校と家庭、地域の連携力が高まり、良い成果が出てきている。	＜保護者アンケート7,10＞ 学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じているか。	＜保護者アンケート7＞ 88% ＜保護者アンケート10＞ 80% 今年度も4月に授業参観、5月に運動会を開催し、保護者の参加の制限も撤廃し多くの保護者が来校した。また、授業参観に合わせて学年懇談会も実施し、保護者とのつながりを高めることができた。学校運営協議会の協力をいただき2年生の職業講話や職場体験も行き、学校と保護者、地域との連携がより進んだ。ホームページの更新や学校だよりの発行によって学校の活動を紹介しているが、今後も継続していきたい。	B	＜今後の改善策＞ ・withコロナの視点で新しく進んだことや新しい課題が社会全体で浮き彫りになった。学校として積極的に取り組んでいることを保護者、地域と連携しながら情報発信していきたい。

◆【評価の根拠】は生徒・保護者・教職員アンケートによって、「肯定的な意見がA：90%、B：80%、C：70%、D：70%未満」として評価する。
 ◆評価は<1：そう思う、2：どちらかと言えばそう思う、3：どちらかと言えばそう思わない、4：そう思わない>の4つで選択する。
 ◆各項目で評価をする際に、2つ以上のアンケートを必要とする場合は、上記の意見で低い方の結果を評価する。